

## 津波災害に備えよう


過去にも概ね百〜百五十年の周期で繰り返して起きている東南海・南海地震。2030年までの発生確率は、東南海が50%、南海が40%とされていて、揺ればかりでなく、大きな津波が生じる恐れもあります。

東南海・南海地震が発生した場合、笠岡市では3m以上の大津波や、満潮時に陸上浸水したときの深さが2m以上にもなる津波の発生が予想されるとして、国の中央防災会議で、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されています。


押し寄せる津波から身を守るには、避難する以外に方法はありません。強い地震や長い揺れを感じたら、ただちに海岸から離れ、高台などの安全な場所に避難してください。

## 非常持ち出し品を準備しておきましょう

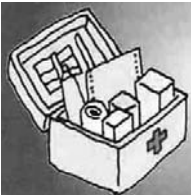
**携帯ラジオ**  
 小型で軽くFMとAMが聴けるもの。予備の電池も忘れずに。




**非常食・水**  
 カンパンなどの火を通さなくても食べられるもの。赤ちゃんがいれば、粉ミルクなども。



**救急薬品・常備薬**  
 絆創膏、ガーゼ、包帯、三角巾、消毒薬、かぜ薬など。持病のある人は常備薬も。




**懐中電灯・ろうそく**  
 停電時や夜間の移動にかかせない。予備の電池も忘れずに。




**生活用品**  
 ライター、ナイフ、缶切り、ビニール袋、ティッシュなど。赤ちゃんがいれば哺乳びんも。



**通帳・証書類**  
 預貯金通帳、印鑑、健康保険証、免許証など。住所録もあれば便利。



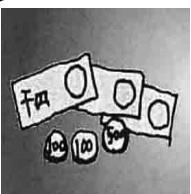
**ヘルメット 防災ずきん**  
 屋根瓦や看板などの落下物から頭部を守るため。



**衣類**  
 下着、上着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなど。赤ちゃんの紙おむつなども。



**現金**  
 紙幣だけでなく硬貨もあると便利。



## 災害用伝言ダイヤル171

地震などの災害発生時は、膨大な数の電話が被災地に集中するため、電話がかかりにくくなります。

このような状態でも、家族間で安否の確認や避難場所の連絡をスムーズに行えるのが「災害用伝言ダイヤル」です。

局番なしの「171」にかければすぐに災害用伝言ダイヤルにつながり、簡単な方法で伝言の登録や再生を行うことができます。

## 市民と行政が一体となって

笠岡市では、地域防災をテーマとした巡回市長室を昨年度実施し、各地区で防災意識の高揚と防災体制づくりを呼びかけました。自主防災組織の結成率は、6月末現在で約40%となっています。ちなみに、全国平均では65%、県平均では44%という高い組織率となっています。

災害の被害を最小限にするには、まず自分の身は自分で守る「自助」と、地域が協力して助け合う「互助」が大切です。そして、道路や通信網が分断される大規模な災害では、何よりも地域の人たちの「マンパワー」が被災者の救助などに大きな力を発揮します。

笠岡市では、未組織の地域に自主防災組織の必要性を引き続き訴えて

## 防災訓練を実施します

いくととともに、市民と行政が一体となった災害に強いまちづくりを確立していきます。

9月1日の「防災の日」及び8月30日から9月5日の「防災週間」の一環として、防災訓練を行います。多くの市民の皆さんの参加・見学をお願いします。



### 笠岡市防災訓練

とき…8月27日(日)9時30分～  
 ところ…金浦中学校グラウンド